



南十字星



2020年度 第8号

令和2年7月30日

クイーンズランド補習授業校

ブリスベン校

校長 直塚 裕典

E-mail : hoshuko@jc-b.com

長く、待ち続けた対面授業がスタートしました！



やっと対面授業ができたことに、保護者の皆様は安心されたことだと思います。借用校が決まるまでには、金澤運営委員長様を始め、各運営委員の皆様、関係者の方々、そして補習校のご理解に努めていただいた St Aidan 校の校長先生、担当者の皆様のご尽力のおかげで叶うことができ、感謝申し上げます。再開当日は、先生方から「子ども達は笑顔で登校していました」、「授業にも一生懸命に取り組んでいました」、「実際に教室で会えるのは格別でした」などの感想をいただきました。何よりも子ども達が一番心待ちにしていたのではないのでしょうか。今までできなかったことを一つ一つかみしめて前に進んでいってほしいと思います。

「子ども達へのメッセージ」です！

～お子さんと一緒に読んでいただければ幸いです～

対面授業が始まりました。皆さんは、どんな気持ちで新しい学校へ登校しましたか。どんな学校だろうか？担任の先生はどんな人だろうか？友達できるかな？など、この学校に夢と期待をもって教室に入ったことだと思います。そこで、今日は皆さんにある人物を紹介して、皆さんへのメッセージとします。

江戸時代、新井白石という学者がいました。しかし、子どもの頃の白石は、朝から晩まで遊んでばかりで、勉強をしませんでした。そんな白石を見て、父親がこんな話をして諭したそうです。

「1粒の米をとっても、お米が減ったかどうか分からない。けれども、1年か2年、毎日1粒ずつ取っていると、減ったことがわかる。反対に、1粒ずつお米を加えてもお米が増えたかどうか分からない。だけど、1年か2年、毎日1粒ずつ加えていると、増えたことがわかる。勉強も同じだ。1日だけ勉強したり練習したりしても、すぐに利口になったり上手になったりするわけではない。1日怠けたからといって、翌日にすぐ勉強ができなくなったり下手になったりするわけではない。けれども、毎日、毎日、ほんの少しずつでも努力を続けると、1年後2年後には、上手になったことが分かる。毎日少しだけでも怠けていると、気がついたときには勉強も分からなくなっている。」

最後に、これから対面授業を迎えるにあたり、皆さんはたくさんの宝ものを見つけてください。友達や日本のこと、思いやりなどです。もし、近くに困っている人がいたら、さりげなく手を差し伸べてください。そういう補習校にみんなで力を合わせてやっていきましょう。



一粒の米

保護者の皆様へのお願い ～子ども達をコロナウィルスから守りましょう！

保護者の皆様には、再度、コロナ対策のご確認をお願いしたいと思います。

○朝のセルフチェックを必ず行い、お子さんに持たせてください。

○保護者の方は、危険ですので送迎時に車から降りないでください。

○送迎の安全面では、駐車場が混雑していますので、ドロップ場所とピックアップ場所を

確認の上、兄弟・姉妹の場合は、帰りの待つ場所で必ずまとまっているようお願いします。

○カープールをする場合は、前日までに担任に連絡(メール等)を入れるようにしてください。



子ども達の笑顔！ やはり友達は最高のようです！～役員の皆様ありがとうございました～



校長から皆様へ！ 感謝の気持ちを日本の心（態度）で示していきましょう。

今回、St Aidan 校の校長先生始め、担当者の方々の多大なるご理解のもと、対面授業ができることになりました。これから、代替校と良好な関係を築いていかなければなりません。そのためには、St Aidan 校とのルールを厳守することや新校舎で子ども達が安全に過ごすために保護者ボランティアの方の増員が必要です。お忙しいとは存じますが、子ども達の安全対策のために保護者の方のご理解とご協力をお願いします。

詳細につきましては、後日連絡をいたします。



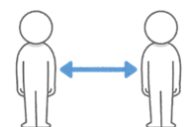
当番安全から保護者の方へのメッセージ

お待たせいたしました、St Aidan 校用の 2 学期当番表をお送りします。前回お渡ししておりました 4 人体制の当番では、新校舎での登下校等が対応しきれないため、急遽、8 人体制の当番表に変更しております。当番表下記の注意事項も含め、ご確認お願い致します。今学期はこの 8 人体制+役員のサポートで様子を見、来学期の当番体制を精査していきたいと思っております。当番内容の詳細は、当番日の数日前に届くメールでご確認ください。急な変更でご都合のつかない方もおられるかもしれませんが、ご理解とご協力よろしくお願い致します。

初日は急なお知らせにもかかわらず、保護者の方々のご協力のおかげで大きな問題もなくスムーズに登下校を行うことができました。保護者会役員一同お礼申し上げます。コロナ規制の中、初めての校舎での開校という、全てがイレギュラーな状況下で、これからも子供達が安全に安心して学べる場所を提供できるよう、役員一同、しっかりと考えていきたいと思っておりますので、至らないところもあるかと思いますが、これからも宜しくお願い致します。

別添資料が 2 つありますので、よろしくお願い致します。

- 運営委員会からの連絡事項
- 当番安全からの 2 学期当番表





南十字星



2020年度 第9号

令和2年8月13日

クイーンズランド補習授業校

ブリスベン校

校長 直塚 裕典

E-mail : hoshuko@jc-b.com

対面授業が始まり4回目を迎えます！



7月25日から対面授業が始まり、早いもので4回目を迎えます。運営委員の皆様や保護者役員、ボランティアの方々には、早朝より送迎時の駐車場整理の安全面や消毒などのコロナ対策等で大変お世話になっています。本当にありがとうございます。子ども達の笑顔や皆様からの感謝の気持ち「いつもありがとうございます」などでの声掛けで、報われますと言われていました。そういう思いやりの中で、補習校が始まっているのだと感じているところです。先生方からは、セルフチェック表の忘れが減り、授業にも集中していますとお聞きしています。また、アシスタントの先生方には通常と違ったお仕事もありますが、常に前向きに頑張ってください。教職員・運営委員・保護者の方々が、一つになって取り組んでいただいていることが補習校の子ども達への大きな指針につながるのではないかと思います。

日本は、梅雨が明けて暑い日が続く、蝉の声も聞こえ、お盆の時期を迎えています。そちらは冬ですので寒いでしょうね。今後とも補習校の子ども達のためにご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

「ある人物の言葉から学ぼう！」 ~このような状況だからこそ、できることがある~

今日は、ヤクルトスワローズで活躍した元プロ野球の古田敦也選手の言葉を紹介します。

「固定観念に縛られて先に進めなくなることもある」

野村克也監督の緻密なデータ野球を捕手として支え、「球界の頭脳」と呼ばれた人です。その古田選手が自分の思考法やマネジメント術を語った「優柔決断のすすめ」に「初志貫徹」という言葉はあまり好きではないと書かれています。それは「初志にばかりこだわりすぎると、どうしても変化を嫌うことになりやすい」からだそうです。何か方針を立てても、数年もすると時代に合わなくなることもあります。だとすれば、「こだわる」より「柔軟に対応する」ことの方が大事ではないかと考えたそうです。もちろん、「初志貫徹」と「柔軟に対応」のどちらがよりよい方針であるかは、時と場合によって違います。結果として初志貫徹の方がより大きな成果につながることもあるでしょう。野球の捕手は、常に試合の流れに目を光らせ、その場の状況におけるベストの選択が要求されます。子ども達もこれからの人生の中で様々な試練に出会うことでしょう。それを乗り越えるだけの力を付けてほしいと思います。

保護者役員の皆様、頑張ってください

保護者会役員の皆様6人で力を合わせて、消毒等の段取りや保護者送迎時の乗降の手順、安全面での対策等を試行錯誤しながら頑張ってください。通常であれば、当番安全役員だけの仕事も役員の係や担当に関係なく動いていただいています。本当にありがとうございます。

